

資料3-4-②

平成30年度第3回

関東地方整備局

事業評価監視委員会

(再評価)

荒川

総合水系環境整備事業

平成30年11月20日

国土交通省 関東地方整備局

荒川太郎右衛門地区と荒川中流部地区 自然再生事業

X2

荒川の河川環境整備に関するアンケート調査のご協力のお願い 『荒川太郎右衛門地区』と『荒川中流部地区』の自然再生について

平素は、荒川の河川事業にご協力いただき、ありがとうございます。

国土交通省 関東地方整備局 荒川上流河川事務所では、「かつての荒川の豊かな自然の再生」を目指し、荒川の自然再生に取り組んでいきます。

このアンケート調査は、荒川太郎右衛門地区および荒川中流部地区での自然再生の取り組みについて、流域の皆様の関心を把握することを目的として実施するものであり、本取り組みによる効果が及ぶ範囲として期待される周辺地域にお住まいの皆様の中から無作為に抽出した方にお願いしております。

ご多忙のところ、誠に恐れ入りますが、本アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようよろしく願いいたします。

■ご回答にあたって

- ・アンケートは、世帯の中で主な収入を得られている方、または、それに準じる方（主にその配偶者）がお答えください。

■個人情報について

- ・ご回答いただいた内容は、全て統計的に処理しますので、個々の数値やご意見が公表されることはありません。

■アンケート実施者

- ・実施主体：国土交通省 関東地方整備局
荒川上流河川事務所 河川環境課

■荒川上流河川事務所の事業については

荒川上流河川事務所のホームページ <http://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/arajo00053.html>

次へ

[質問] 項番は回答者へは表示しません

| x3

【説明資料】をご覧いただき、質問にお答えください。

説明資料

1. 自然再生の取り組み箇所

自然再生の取り組み箇所は、埼玉県上尾市・桶川市・川島町にまたがって広がる荒川の河川敷の『荒川太郎右衛門地区』と川幅の広い荒川の河川敷の『荒川中流部地区』の2箇所です。



荒川は、秩父山地の甲武信ヶ岳に水源を発し、東京湾に注ぐ流量延長約173km、流域面積2,940km²の河川です。



注)『荒川中流部地区』とは、大芦橋付近から荒井橋付近の間の荒川です。

[画像を拡大]
[クリック必須]

次へ

【質問】 項番は回答者へは表示しません

2. 『荒川太郎右衛門地区』の自然再生の取り組みの目的と内容

説明資料

目的：かつての荒川の豊かな自然を再生します。

- 内容：
- ①旧流路の保全・再生のために旧流路の堆積物を掘削し水面を再生します。
 - ②湿地※1及び止水環境※2の拡大のために、河川敷の一部を掘削します。
 - ③河畔林の保全・再生等のために外来種を除去し、ハンノキ等の幼木を移植します。

※1 湿地：

湿地は度々冠水する低地で、ヨシなどの水辺に生育する植物、水生生物やそれを餌とする鳥類などの生物の重要な生育・生息場所となります。



※2 止水環境：

止水環境は、常に水面がある状態で、水面のある場所が干上がった場合の魚の一時避難場所になったり、水草の生育環境として重要な場所となります。



背景：

かつての『荒川太郎右衛門地区』

約80年前の荒川は、蛇行して流れていました。



約80年前の荒川の流れ
(旧流路)

地理院地図の航空写真を加工して作成
航空写真的出典：国土地理院ウェブサイト (<http://maps.gsi.go.jp/>)

現在の『荒川太郎右衛門地区』

約80年前の河川改修により、荒川の本川は直線化され、かつて蛇行していた荒川の旧流路は、3つの「池」として残っています。



旧流路・河川敷の課題

- 冠水頻度の低下、土砂堆積により旧流路の乾燥化が進んでいます。
- 樹林地が高木化・壮齢化※3し河畔の特徴的な姿が失われています。

※3 壮齢化（そうれいか）：
樹林内の木々が樹齢を重ねて成長し、若木が育たず単調な樹林環境となること。

[画像を拡大]
[クリック必須]

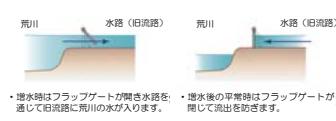
次へ

【質問】項目は回答者へは表示しません

3. 『荒川太郎右衛門地区』の自然再生の取り組みで期待される効果

説明資料

①旧流路の保全・再生



- 上池の旧流路に堆積した土砂を掘削し、かつての河床を再生しました。
- さらに、荒川本川からの流入口を新設し、水が抜けないようフラップゲートを設置しました。



②湿地及び止水環境の拡大



湿地が形成され、湿性植物が生育している。

- 上池の旧流路の河川敷だった場所を掘削し、湿地環境の拡大を図りました。



再生はじめた湿性植物

③河畔林の保全・再生等



外来種が繁茂し、高木の壮齢樹に覆われ薄暗くなった樹林内。

- 下池において、乾燥化し外来種が繁茂していた場所を湿润な高さまで掘削しました。
- 地域の方々と協働で、ハンノキの幼木を移植し、外来種除去などの保全作業を行っています。



[画像を拡大]
[クリック必須]

次へ

[質問] 項番は回答者へは表示しません

4. 『荒川中流部地区』の自然再生の取り組みの目的と内容

説明資料

目的：かつての荒川の豊かな自然を再生します。

内容：

- 河川敷を掘削し、荒川中流部本来の湿地※4を再生します。
- 水路の段差を解消し、水生生物（ナマズ、ドジョウ、ウナギ、カエル類など）の移動経路を再生します。

背景：

荒川中流部の課題

① 湿地・池沼面積の減少

② 湿地の質の変化・外来植物群落の増加

③ 堤防の内・外を行き来する生物の減少

※4 湿地：
湿地は度々冠水する低地で、ヨシなどの水辺に生育する植物、水生生物やそれを餌とする鳥類などの生物の重要な生育・生息場所になります。



：昭和20年代と比較して著しく湿地面積が減少しています。

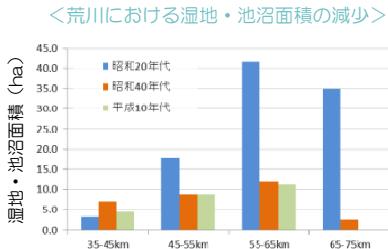
：平成8年と平成28年を比較すると湿地面積の減少は軽微ですが、ヨシ群落からオギ群落へ遷移するなど、在来湿生草地※5が減少し、在来乾生草地※6が増加しています。また、セイタカアワダチソウやオオブタクサなどの外来乾生草地※7が増加しています。

：水路の段差などにより河川と流入水路を行き来する魚類が減少しています。

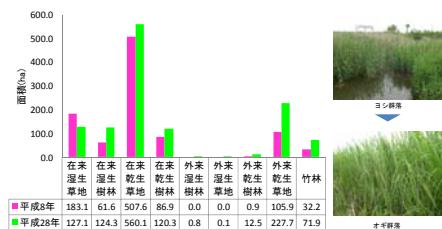
※5 在来湿生草地：
在来湿生草地は、ふるくから荒川中流部にいる、湿地の草が生育する草地です。

※6 在来乾生草地：
在来乾生草地は、ふるくから荒川中流部にいる、乾燥した場所を好む草が生育する草地です。

※7 外来乾生草地：
外来乾生草地は、もともと荒川中流部にいなかった、乾燥した場所を好む草が生育する草地です。



＜草地・樹林面積の変化および草地の遷移＞



＜かつて普通に見られた種が絶滅危惧種に＞

【魚類】
✓ ヤリタナゴ（県絶滅危惧 IA類）
✓ ウナギ（国絶滅危惧 IB類）



【画像を拡大】
【クリック必須】

次へ

[質問] 項番は回答者へは表示しません

5. 『荒川中流部地区』の自然再生の取り組みで期待される効果

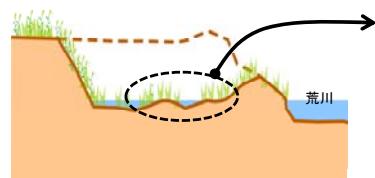
説明資料

①湿地面積の拡大および②外来植物群落の減少・在来湿性植物群落の増加

○乾燥化した河川敷では外来植物群落の面積が大きい状況です。



○かつての湿地環境を再生するため、乾燥した河川敷を掘削し、湿地面積を拡大します。



湿地のイメージ

○乾燥した河川敷の面積が少くなり、湿地の面積が増えることで、外来植物群落の面積が減少し、在来植物群落の面積が増加します。



ヨシ群落

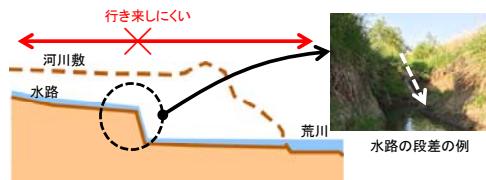


オギ群落

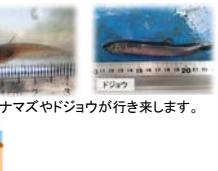
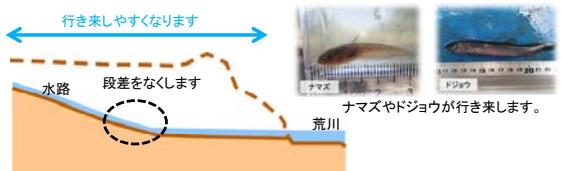
再生する在来植物の例

③水生生物の移動経路の改善

○荒川に流入する水路には段差があり、水生生物は、荒川本川と堤防の内外を行き来しにくい状況です。



○再生した湿地に隣接する水路の段差を無くすことで、水生生物が荒川本川・堤防の内外を行き来しやすくなります。



ナマズやドジョウが行き来します。

[画像を拡大]
[クリック必須]

次へ

[質問] 項番は回答者へは表示しません

Q1 あなたは、『荒川』をご存知でしたか。
必須 あてはまるものを1つだけ選んでください。

再度、説明資料をご覧になる場合は[こちら](#)をご確認ください。

- 1.知っていた
- 2.知らなかった

次へ

[選択肢] 番号は回答者へは表示しません

改ページ

Q2 あなたは、「説明資料」に示した『荒川太郎右衛門地区』や『荒川中流部地区』をご存知でしたか。
必須 あてはまるものを1つだけ選んでください。

再度、説明資料をご覧になる場合は[こちら](#)をご確認ください。

- 1.『荒川太郎右衛門地区』と『荒川中流部地区』のどちらも知っていた
- 2.『荒川太郎右衛門地区』は知っていたが、『荒川中流部地区』は知らなかった
- 3.『荒川太郎右衛門地区』は知らなかったが、『荒川中流部地区』は知っていた
- 4.『荒川太郎右衛門地区』と『荒川中流部地区』のどちらも知らなかった

次へ

[選択肢] 番号は回答者へは表示しません

改ページ

Q3 あなたは、「説明資料」に示したような取り組みについてどう思いますか。
必須 あてはまるものを1つだけ選んでください。

再度、説明資料をご覧になる場合は[こちら](#)をご確認ください。

- 1.重要な取り組みだと思う
- 2.やや重要な取り組みだと思う
- 3.どちらでもない
- 4.あまり重要ではない
- 5.重要ではない

次へ

[選択肢] 番号は回答者へは表示しません

改ページ

Q4 あなたは、「説明資料」に示した『荒川太郎右衛門地区』または『荒川中流部地区』に行ったことがありますか。
必須 あてはまるものを1つだけ選んでください。

再度、説明資料をご覧になる場合は[こちら](#)をご確認ください。

- 1.ある
- 2.ない

次へ

[選択肢] 番号は回答者へは表示しません

改ページ

Q5 必須 あなたは、現在、『荒川太郎右衛門地区』または『荒川中流部地区』にどのような目的で訪れますか。

あてはまるものを全てお選びください。 (いくつでも)

再度、説明資料をご覧になる場合は[こちら](#)をご確認ください。

- 1.散歩やジョギング 6.スポーツ
 2.観光・ドライブ 7.自然観察、環境・体験学習等
 3.釣りや水遊び 8.通勤、通学、買い物などの通り道
 4.カヌーなどの利用 9.その他（具体的に） (回答必須)(入力制限なし)
 5.イベント

次へ

[選択肢] 番号は回答者へは表示しません

[改ページ](#)

Q6 必須 あなたは、現在、『荒川太郎右衛門地区』または『荒川中流部地区』には、どの程度の頻度で訪れますか。

あてはまるものを1つだけ選んでください。

- 1.ほぼ毎日 5.年1回程度
 2.週1回程度 6.数年に1回程度
 3.月1回程度 7.その他（具体的に） (回答必須)(入力制限なし)(200文字まで)
 4.年数回程度

次へ

[選択肢] 番号は回答者へは表示しません

[改ページ](#)

**Q7
必須**

あなたは、「説明資料」で示した取り組みが行われた場合、『荒川太郎右衛門地区』または『荒川中流部地区』にどのくらいの頻度で訪れたいですか。
あてはまるものを1つだけ選んでください。

再度、説明資料をご覧になる場合は[こちら](#)をご確認ください。

- 1.ほぼ毎日 5.年1回程度
- 2.週1回程度 6.数年に1回程度
- 3.月1回程度 7.訪れたいと思わない
- 4.年数回程度 8.その他（具体的に） **(回答必須)(入力制限なし)(200文字まで)**

次へ

[選択肢] 番号は回答者へは表示しません

改ページ

**Q8
必須**

この質問は、アンケート回答時の「つけ間違い」に関する調査のためのものです。
お手数ですが、この問の答えは必ず「わからない」をお選びください。

- 1.はい
- 2.いいえ
- 3.どちらでもない
- 4.わからない

次へ

[選択肢] 番号は回答者へは表示しません

改ページ

X8

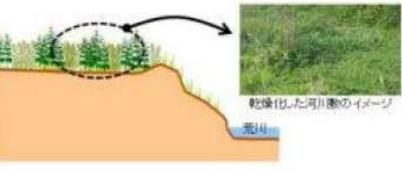
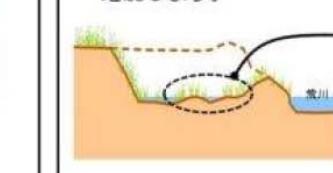
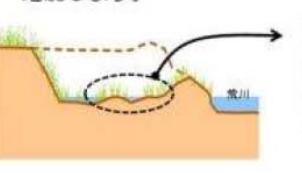
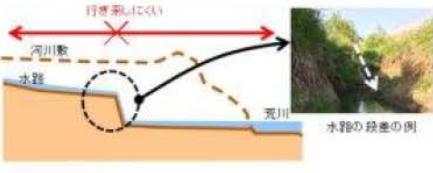
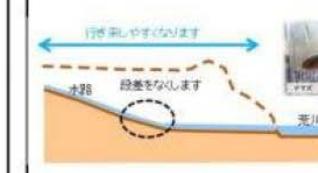
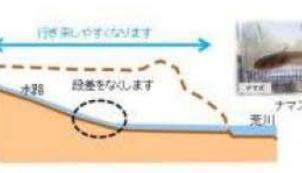
ここからは、**仮定の質問**です。説明資料をよくお読みになった上でQ9～Q11にお答えください。
再度、説明資料をご覧になる場合はこちらをご確認ください。

実際には、このような取り組みは税金によって実施されますが、ここでは取り組みの効果を金額に置き換えて評価するために、仮に税金ではなく、各世帯から負担金を集めて取り組みが行われるような仕組みがあったとしたら、という状況を想像してお答えください。

これはあくまでも、「取り組みの効果を評価するための仮定」であり、実際にこのような仕組みが考えられているわけではありません。
また、この回答をもって税金の値上げを行うことも一切ありません。

荒川太郎右衛門地区

荒川中流部地区

【状況 A】 取り組みを行わない場合	【状況 B】 取り組みを行う場合
<ul style="list-style-type: none">●旧流路には水面がほとんどない状況です。 	<ul style="list-style-type: none">●旧流路の水面が再生されます。 
<ul style="list-style-type: none">●河川敷には湿地がなく草で覆われた状況です。 	<ul style="list-style-type: none">●河川敷に湿地があります。 
<ul style="list-style-type: none">●河川敷が高木に覆われています。 	<ul style="list-style-type: none">●河川敷で若齢樹が生育します。 
<ul style="list-style-type: none">●乾燥化した河川敷は外来植生群落の面積が大きい状況です。  	<ul style="list-style-type: none">●湿地の面積が増加し、河川敷の外来植生群落の面積が減少し、在来植生群落の面積が増加します。  
<ul style="list-style-type: none">●荒川へ流入する水路に段差があり、水生生物が堤防の内・外を行き来しにくい状況です。  	<ul style="list-style-type: none">●荒川へ流入する水路の段差を無くし、水生生物が堤防の内・外を行き来しやすくなります。  

[画像を拡大]

次へ

【質問】項目は回答者へは表示しません

**Q9
必須**

次に、状況Bの負担金の額を具体的に示します。

あなたは、状況Aと状況Bのどちらが望ましいと思うかお考えいただき、望ましいと思う方をお選びください。

なお、負担金は、この地域にお住まいの間、負担いただくこととなり、この分だけあなたの世帯で使うことのできるお金が減るとを、十分念頭においてお答えください。

また、負担はこの取り組みの実施と維持管理のためにのみ使われ、他の目的にはいっさい使われないものとします。
(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

- 再度、説明資料をご覧になる場合は[こちら](#)をご確認ください。
- 再度、状況Aと状況Bをご覧になる場合は[こちら](#)をご確認ください。



	1. 支払わない (状況Aがよい) (排他)	2. 支払う (状況Bがよい)
(1). 状況Bの負担金が世帯あたり <u>毎月30円（年間360円）</u>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(2). 状況Bの負担金が世帯あたり <u>毎月50円（年間600円）</u>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(3). 状況Bの負担金が世帯あたり <u>毎月100円（年間1,200円）</u>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(4). 状況Bの負担金が世帯あたり <u>毎月200円（年間2,400円）</u>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(5). 状況Bの負担金が世帯あたり <u>毎月300円（年間3,600円）</u>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(6). 状況Bの負担金が世帯あたり <u>毎月500円（年間6,000円）</u>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(7). 状況Bの負担金が世帯あたり <u>毎月1,000円（年間12,000円）</u>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(8). 状況Bの負担金が世帯あたり <u>毎月3,000円（年間36,000円）</u>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

次へ

Q10 必須 Q9の（1）で、「1. 支払わない（状況Aがよい）」とお答えの方にお伺いします。
その理由は何ですか。もっとも近いと思うものを1つだけお選びください。
その他の場合、（）の中に具体的にお答えください。

- 1.取り組みは必要だと思うが、負担金を支払う価値まではないと思うから
- 2.取り組みは必要ないと思うから
- 3.負担金を集めるとする仕組みに反対だから
- 4.これだけの情報では判断できないから
- 5.その他（具体的にお答えください）

(回答必須)(入力制限なし)

次へ

【選択肢】番号は回答者へは表示しません

改ページ

Q11 必須 Q9の（1）で、「2. 支払う（状況Bがよい）」とお答えの方にお伺いします。
その理由は何ですか。あてはまるものを全てお選びください。
その他の場合、（）の中に具体的にお答えください。
なお、取り組みについての理解度を確認するため、選択肢の中に本取り組みとは関係ないもののが含まれています。

- 1.眺めがよくなるから
- 2.自然が再生されるから
- 3.自然に親しむことができるようになるから
- 4.地震による被害が減るから
- 5.自分や家族にとって価値はないが、他の世帯も支払うのであれば仕方がないと思うから
- 6.その他（具体的にお答えください）

(回答必須)(入力制限なし)

以上で、仮定の質問は終わりです。

次へ

【選択肢】番号は回答者へは表示しません

改ページ

今後の参考とするため、アンケートの内容についてお尋ねします。

Q12 アンケートに答える際に、分かりにくい点や答えにくい点はありましたか。
必須 あてはまる番号を全て選んでください。
(いくつでも)

- 1.分かりにくい点、答えにくい点はなかった(**排他**)
- 2.荒川の現状がどのようにになっているか分からなかった
- 3.取り組みが実施されることにより、どのような効果があるのか分からなかった
- 4.取り組みのために住民から負担金を集めるとの想定を受け入れにくかった
- 5.負担金に関する設問で支払うかどうか答えにくかった
- 6.荒川の環境に興味がないため、答えにくかった
- 7.アンケートを実施する側の反応が気になった
- 8.その他の理由で答えにくかった (具体的にお答えください) (回答必須)

次へ

[選択肢] 番号は回答者へは表示しません

[改ページ](#)

最後に、あなたご自身についてお尋ねします。

Q13-1 あなたの性別をお答えください。
必須

- 1.男性
- 2.女性

次へ

[選択肢] 番号は回答者へは表示しません

[改ページ](#)

Q13-2 **必須** あなたの年齢をお答えください。

- 1. 20代
- 2. 30代
- 3. 40代
- 4. 50代
- 5. 60代
- 6. 70代以上

次へ

[選択肢] 番号は回答者へは表示しません

改ページ

Q13-3 **必須** あなたの現在のご住所の郵便番号を入力してください。

わからない場合は[こちら](#)からご確認ください。

テキストボックス1
※ハイフン“-”を除く7桁をご記入ください。 **【必須】(半角英数/記号)(制限あり:7文字以上7文字以内)**

次へ

改ページ

**Q14
必須**

あなたがこのアンケートを回答している端末をお答えください。

- 1.ノートパソコン
- 2.デスクトップパソコン
- 3.タブレットPC
- 4.スマートフォン
- 5.その他 (具体的に) (回答必須)(入力制限なし)(200文字まで)

[次へ](#)

[選択肢] 番号は回答者へは表示しません

[改ページ](#)

Q15

今後の河川環境整備のあり方や、アンケートの内容・体裁などについてご意見がありましたらご自由にお書きください。

(文字数制限なし)

[次へ](#)

[改ページ](#)

荒川環境整備事業（自然再生事業）評価 CVM調査結果

<荒川太郎右衛門・中流部地区>

1. アンケート集計数

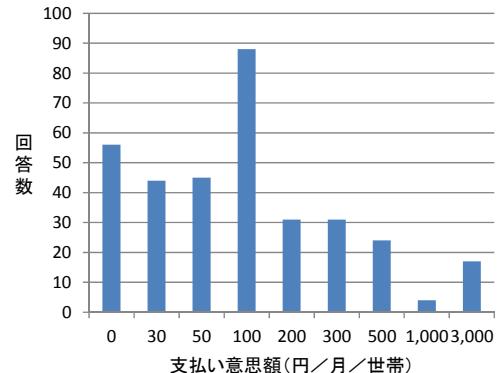
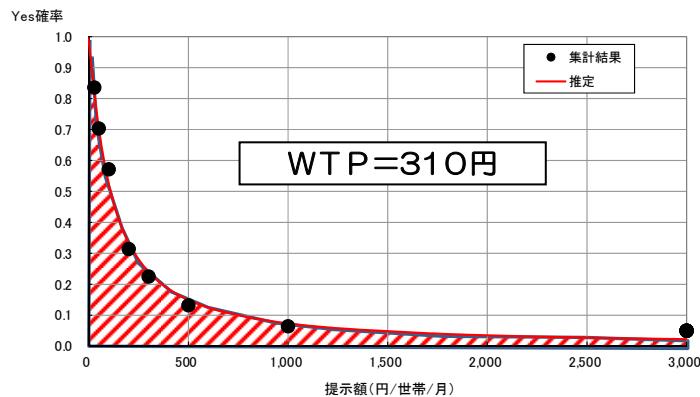
配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
6,129	583	9.5%	340	58.3%

※WEBアンケート調査

2. WTP算定結果

表1 提示額と賛同率

提示額	反対数	賛成数	合計
	0	340	340
30	56	284	340
50	100	240	340
100	145	195	340
200	233	107	340
300	264	76	340
500	295	45	340
1,000	319	21	340
3,000	323	17	340



3. B/C算定結果

WTP(円)	受益世帯数	B(百万円)	C(百万円)	B/C
310	199,483	16,659	9,926	1.7

◇Bは残存価値を加算した

◇年便益 = $WTP \times 12 \text{ヶ月} \times \text{受益世帯数}$
 $= 310 \times 12 \times 199,483 = 742$ (百万円)

事業費の内訳書

河川事業

事業名	荒川総合水系環境整備事業(全体事業費)				
-----	---------------------	--	--	--	--

※()欄に残事業費、全体事業費の別を記入すること。

評価年度	H30	再評価			
------	-----	-----	--	--	--

※評価の種類(新規事業採択時評価、再評価、完了後の事後評価)の別を記入すること。

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
工事費					41,525	
本工事費	自然再生 明戸地区	箇所	1	365	魚道整備等:1箇所	
	自然再生 荒川太郎右衛門・中流部地区	式	1	2,749	湿地環境の再生(盤下げ):8.3万m ² 堤内外地の連続性確保:2箇所 旧流路の掘削:2.5万m ² 導水路整備:0.3km 湿地環境拡大の掘削:4.5万m ² 河畔林の保全、再生:3.3万m ²	
	自然再生 荒川下流地区	式	1	7,273	消波施設、緩傾斜河岸:28箇所	
	水辺利用 北本水辺利用地区	式	1	588	護岸整備:0.36km 高水敷整正:1.95万m ²	
	水辺利用 荒川下流地区	式	1	17,277	防災避難坂路、福祉の荒川づくり 坂路の整備:202箇所／天端舗装等:17km 舟運等水面利用促進 水面利用施設:301基 利用推進河岸整備 親水護岸:7.6km 水上ネットワーク拠点整備 水辺散策路:58km 水と緑のネットワーク拠点整備 堤防側帯:1.4km	
	水環境 荒川下流地区	式	1	13,272	綾瀬川・芝川等浄化導水事業 導水管設置／芝川等:16km 菖蒲川、笹目川等浄化導水事業 導水管設置／菖蒲川、笹目川:4.8km	
	用地補償費	式	1	1,537		
間接経費	式	1	10,517			
工事諸費	式	1	7,242			
事業費 計	式	1	60,821			

維持管理費	式	1	8,713	
-------	---	---	-------	--

※1 事業費については、事業の執行状況を踏まえて再評価ごとに適宜見直すこと。

※2 「工種」及び「金額」については、原則、治水経済調査マニュアル(案)に準拠して記載すること。

※3 上記によらないものについては、過去の類似の実績等に基づき記載すること。

※4 備考欄に一式計上している工種の内容等を記載すること。

事業費の内訳書

河川事業

事業名	荒川総合水系環境整備事業(残事業費)				
※()欄に残事業費、全体事業費の別を記入すること。					

評価年度	H30	再評価
※評価の種類(新規事業採択時評価、再評価、完了後の事後評価)の別を記入すること。		

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
工事費					13,616	
	本工事費					
	自然再生 明戸地区					完了
	自然再生 荒川太郎右衛門・中流部地区	式	1	1,744	湿地環境の再生(盤下げ):8.3万m ² 堤内外地の連続性確保:2箇所 河畔林の保全、再生:1.1万m ²	
	自然再生 荒川下流地区	式	1	3,534	消波施設、緩傾斜河岸:11箇所	
	水辺利用 北本水辺利用地区				完了	
	水辺利用 荒川下流地区	式	1	8,338	防災避難坂路、福祉の荒川づくり 坂路の整備:26箇所 利用推進河岸整備 親水護岸:5.15km 水上ネットワーク拠点整備 水辺散策路:54.8km	
	水環境 荒川下流地区					完了
用地補償費			式	1	0	
間接経費			式	1	2,492	
工事諸費			式	1	2,942	
事業費 計			式	1	19,050	

維持管理費	式	1	7,338	
-------	---	---	-------	--

※1 事業費については、事業の執行状況を踏まえて再評価ごとに適宜見直すこと。

※2 「工種」及び「金額」については、原則、治水経済調査マニュアル(案)に準拠して記載すること。

※3 上記によらないものについては、過去の類似の実績等に基づき記載すること。

※4 備考欄に一式計上している工種の内容等を記載すること。

全体事業評価(水系全体)

(百万円)

	便益 ①	残存価値 ②	総便益 B(①+②)	建設費 ③	維持管理費 ④	総事業費 C(③+④)	費用便益比 B/C	備考
基本	353,265	560	353,826	91,926	4,711	96,637	3.7	
残事業費+10%	353,265	560	353,826	93,392	4,711	98,104	3.6	
残事業費-10%	353,265	560	353,826	90,460	4,711	95,171	3.7	
残工期+10%	354,236	560	354,796	91,659	4,712	96,370	3.7	
残工期-10%	352,216	560	352,776	92,175	4,710	96,885	3.6	
便益+10%	388,592	560	389,152	91,926	4,711	96,637	4.0	
便益-10%	317,939	560	318,499	91,926	4,711	96,637	3.3	

全体事業評価(自然再生)

(百万円)

	便益 ①	残存価値 ②	総便益 B(①+②)	建設費 ③	維持管理費 ④	総事業費 C(③+④)	費用便益比 B/C	備考
基本	167,349	67	167,417	23,137	312	23,449	7.1	
残事業費+10%	167,349	67	167,417	23,756	312	24,068	7.0	
残事業費-10%	167,349	67	167,417	22,518	312	22,830	7.3	
残工期+10%	168,320	67	168,387	22,950	312	23,262	7.2	
残工期-10%	166,300	67	166,367	23,331	311	23,641	7.0	
便益+10%	184,084	67	184,152	23,137	312	23,449	7.9	
便益-10%	150,614	67	150,682	23,137	312	23,449	6.4	

全体事業評価(水辺整備事業)

(百万円)

	便益 ①	残存価値 ②	総便益 B(①+②)	建設費 ③	維持管理費 ④	総事業費 C(③+④)	費用便益比 B/C	備考
基本	99,876	196	100,072	29,833	698	30,530	3.3	
残事業費+10%	99,876	196	100,072	30,680	698	31,378	3.2	
残事業費-10%	99,876	196	100,072	28,985	698	29,683	3.4	
残工期+10%	100,208	196	100,404	29,671	699	30,371	3.3	
残工期-10%	99,530	196	99,726	29,998	697	30,694	3.2	
便益+10%	109,863	196	110,059	29,833	698	30,530	3.6	
便益-10%	89,888	196	90,084	29,833	698	30,530	3.0	

全体事業評価(水環境事業)

(百万円)

	便益 ①	残存価値 ②	総便益 B(①+②)	建設費 ③	維持管理費 ④	総事業費 C(③+④)	費用便益比 B/C	備考
基本	86,040	297	86,337	38,957	3,702	42,658	2.0	
残事業費+10%	86,040	297	86,337	38,957	3,702	42,658	2.0	完了のため基本と同じ
残事業費-10%	86,040	297	86,337	38,957	3,702	42,658	2.0	完了のため基本と同じ
残工期+10%	86,040	297	86,337	38,957	3,702	42,658	2.0	完了のため基本と同じ
残工期-10%	86,040	297	86,337	38,957	3,702	42,658	2.0	完了のため基本と同じ
便益+10%	94,644	310	94,955	40,718	3,702	44,419	2.1	
便益-10%	86,040	297	86,337	38,957	3,702	42,658	2.0	

残事業評価(水系全体)

(百万円)

	便益 ①	残存価値 ②	総便益 B(①+②)	建設費 ③	維持管理費 ④	総事業費 C(③+④)	費用便益比 B/C	備考
基本	85,197	112	85,309	14,661	132	14,793	5.8	
残事業費+10%	85,197	112	85,309	16,127	132	16,260	5.2	
残事業費-10%	85,197	112	85,309	13,195	132	13,327	6.4	
残工期+10%	85,678	112	85,791	14,394	132	14,526	5.9	
残工期-10%	84,675	112	84,788	14,910	132	15,042	5.6	
便益+10%	93,716	112	93,829	14,661	132	14,793	6.3	
便益-10%	76,677	112	76,789	14,661	132	14,793	5.2	

残事業評価(自然再生)

(百万円)

	便益 ①	残存価値 ②	総便益 B(①+②)	建設費 ③	維持管理費 ④	総事業費 C(③+④)	費用便益比 B/C	備考
基本	56,288	27	56,315	6,190	42	6,232	9.0	
残事業費+10%	56,288	27	56,315	6,809	42	6,851	8.2	
残事業費-10%	56,288	27	56,315	5,571	42	5,613	10.0	
残工期+10%	56,770	27	56,797	5,988	42	6,030	9.4	
残工期-10%	55,767	27	55,794	6,383	42	6,425	8.7	
便益+10%	61,917	27	61,944	6,190	42	6,232	9.9	
便益-10%	50,660	27	50,686	6,190	42	6,232	8.1	

残事業評価(水辺整備事業)

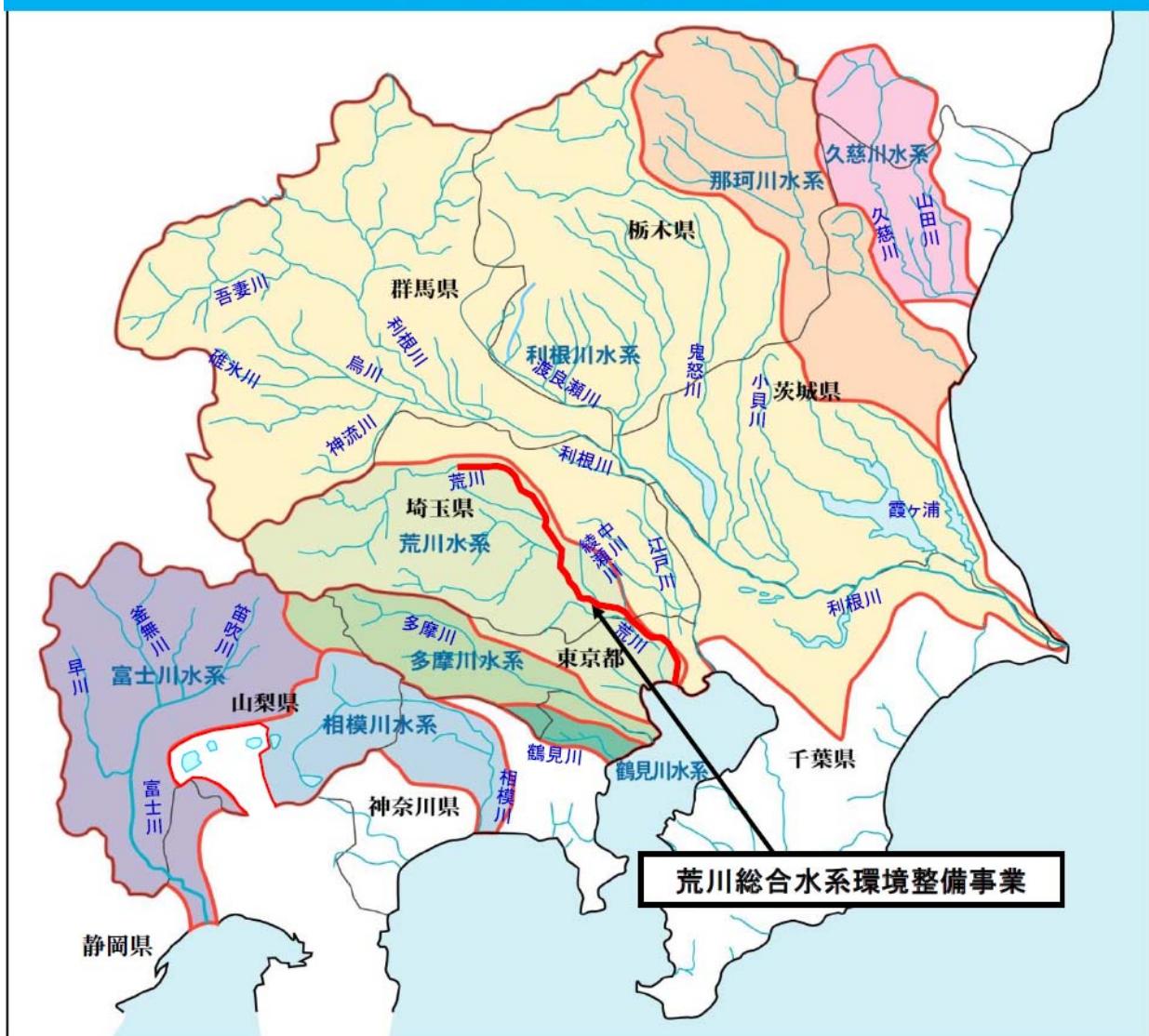
(百万円)

	便益 ①	残存価値 ②	総便益 B(①+②)	建設費 ③	維持管理費 ④	総事業費 C(③+④)	費用便益比 B/C	備考
基本	28,908	86	28,994	8,472	90	8,562	3.4	
残事業費+10%	28,908	86	28,994	9,319	90	9,409	3.1	
残事業費-10%	28,908	86	28,994	7,624	90	7,715	3.8	
残工期+10%	29,060	86	29,146	8,310	90	8,401	3.5	
残工期-10%	28,750	86	28,836	8,637	90	8,727	3.3	
便益+10%	31,799	86	31,885	8,472	90	8,562	3.7	
便益-10%	26,017	86	26,103	8,472	90	8,562	3.0	

費用対効果

荒川総合水系環境整備事業(全体事業 便益+10)				水系名: 荒川水系				河川名: 荒川				(単位:百万円)			
年次	t	便益			費用				費用対効果				費用便益比 B/C	純現在価値 B-C	
		便益①	現存価値 ②	計 ①+②	建設費③	維持管理費④	計③+④	費用	現在価値	費用	現在価値	費用	現在価値		
整備期間	H6	-24			52	136				52	136				
	H7	-23			163	414				163	414				
	H8	-22			1,024	2,516				1,024	2,516				
	H9	-21			1,888	4,438				1,888	4,438				
	H10	-20			3,074	7,093				3,074	7,093				
	H11	-19	64	134	134	3,218	7,213	0.20	0.45	3,218	7,214				
	H12	-18	379	768	768	2,979	6,433	0.30	0.65	2,979	6,434				
	H13	-17	616	1,200	1,200	2,200	4,682	0.40	0.85	2,200	4,683				
	H14	-16	893	1,673	1,673	2,807	5,824	0.50	1.0	2,808	5,825				
	H15	-15	1,257	2,264	2,264	3,511	7,004	1.1	2.2	3,512	7,006				
	H16	-14	1,561	2,704	2,704	3,299	6,308	10	20	3,309	6,328				
	H17	-13	1,733	2,885	2,885	2,438	4,460	8.0	15	2,446	4,475				
	H18	-12	2,032	3,253	3,253	2,632	4,576	10	18	2,642	4,593				
	H19	-11	2,575	3,964	3,964	2,175	3,580	8.2	13	2,183	3,593				
	H20	-10	2,860	4,234	4,234	2,324	3,909	2,931	11	17	1,920	2,948			
	H21	-9	3,124	4,446	4,446	1,837	2,801	97	149	1,934	2,949				
	H22	-8	6,649	9,100	9,100	273	400	113	166	386	565				
	H23	-7	6,736	8,864	8,864	1,389	1,918	121	166	1,510	2,085				
	H24	-6	7,283	9,215	9,215	9,215	474	635	116	155	590	790			
	H25	-5	7,436	9,047	9,047	569	717	126	159	695	877				
	H26	-4	7,553	8,836	8,836	781	921	151	178	932	1,099				
	H27	-3	7,728	8,693	8,693	438	494	158	178	596	672				
	H28	-2	7,944	8,592	8,592	583	630	118	128	701	758				
	H29	-1	8,213	8,542	8,542	676	703	121	125	797	829				
	H30	0	8,444	8,444	8,444	437	437	120	120	557	557				
施設完了後評価期間	H31	1	8,662	8,329	8,329	3,568	3,430	236	227	3,804	3,657				
	H32	2	9,326	8,622	8,622	3,634	3,360	121	112	3,755	3,472				
	H33	3	10,095	8,974	8,974	3,848	3,421	128	114	3,977	3,535				
	H34	4	10,993	9,397	9,397	885	757	121	103	1,006	860				
	H35	5	11,416	9,383	9,383	740	608	133	109	873	717				
	H36	6	11,784	9,313	9,313	680	537	144	114	824	651				
	H37	7	12,113	9,205	9,205	650	494	143	108	792	602				
	H38	8	12,437	9,087	9,087	650	475	146	106	795	581				
	H39	9	12,761	8,965	8,965	650	456	128	90	778	547				
	H40	10	13,084	8,839	8,839	499	337	127	85	626	423				
	H41	11	13,318	8,651	8,651	653	424	252	164	905	588				
	H42	12	13,644	8,522	8,522	174	108	157	98	331	207				
	H43	13	13,673	8,211	8,211	211	104	149	89	323	194				
	H44	14	13,701	7,912	7,912	173	100	125	72	298	172				
	H45	15	13,730	7,624	7,624	30	17	134	74	164	91				
	H46	16	13,730	7,331	7,331	30	16	150	80	180	96				
	H47	17	13,730	7,049	7,049	30	16	145	74	175	90				
合計			839,123	388,592	560	389,152	57,893	91,926	8,114	4,711	66,007	96,637		4.0	292,515

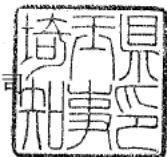
事業位置図



県土政第449号
平成30年11月12日

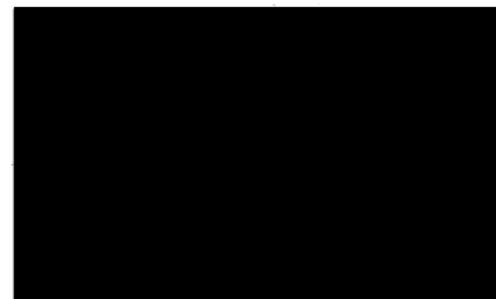
国土交通省
関東地方整備局長様

埼玉県知事 上田 清司



関東地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針（原案）の作成に係る
意見照会について（回答）

平成30年10月30日付け国関整企画第169号の意見照会について、別紙のと
おり回答します。

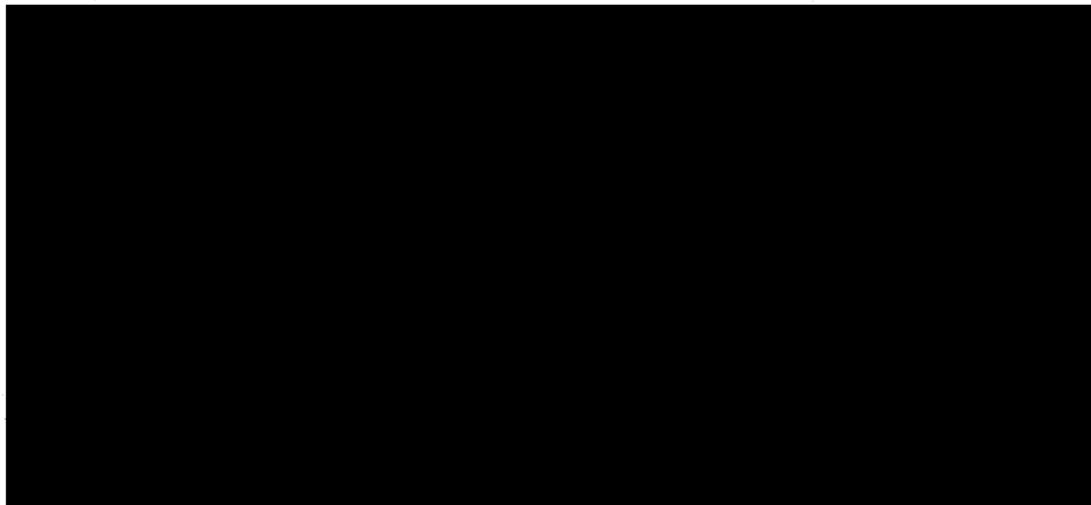


(再評価)

(回答様式)

【河川事業】

事業名	「対応方針(原案)」 案※	埼玉県知事の意見
荒川総合水系環境整備事業	継続	今回、荒川太郎右衛門・中流部地区自然再生事業については、エコロジカル・ネットワーク形成に関する整備等に伴い事業費の増額及び工期延長を行っているが、事業の実施に際し、コスト縮減に十分留意するとともに工期内に完成させるようお願いする。



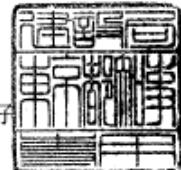
※貴職の意見を踏まえ、関東地方整備局事業評価監視委員会へ諮る対応方針(原案)を作成するためのものです。



30建總企第293号
平成30年11月5日

国土交通省
関東地方整備局長 殿

東京都知事
小池 百合子



関東地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針（原案）の
作成に係る意見照会について（回答）

平成30年10月30日付国閏整企画第169号にて照会のありました標記の件について、
別紙のとおり回答いたします。



(再評価)

(回答様式)

【河川事業】

事業名	「対応方針(原案)」 案※	東京都知事の意見
荒川総合水系環境整備事業	継続	都市化が著しい首都圏において、荒川の下流は、多様な水辺利用が楽しめ、水際の自然が存在する貴重な空間である。 良好な河川環境の保全・再生に向けて、地元との調整やコスト縮減を十分行いながら、河川環境整備事業を継続されるようお願いする。

※貴職の意見を踏まえ、関東地方整備局事業評価監視委員会へ諮る対応方針(原案)を作成するためのものです。